

「種山ヶ原は今⑭」

あの「田中陽希さん」も種山ヶ原に！

NHK・BS「日本百名山」「グレートトラバース」で有名な登山家田中陽希氏が2020年8月5日に北日本踏破の途中種山ヶ原に立ち寄ってくれました！
焼石岳から羽田の鋳物工場に立ち寄り、五葉山に向かう途中、姥石峠越えをやめ立ち寄ってくれたようです。

種山ヶ原の「星座の森キャンプ場」に一泊し、星座の森の薬湯に入り、物見山に登ってくれました。記念すべき日です。



星座の森レストハウスの前で 及川君撮影



星座の森キャンプ場で



物見山で

「種山ヶ原」の歴史

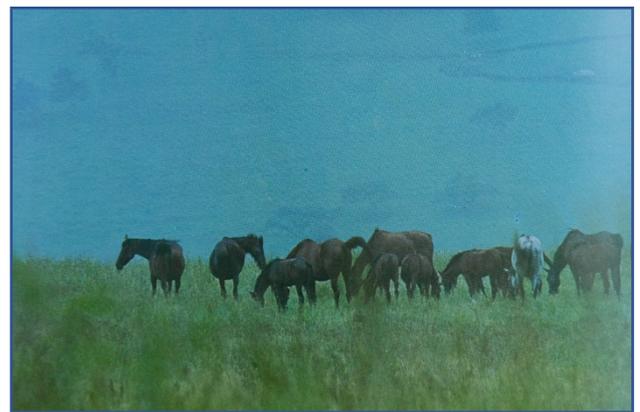
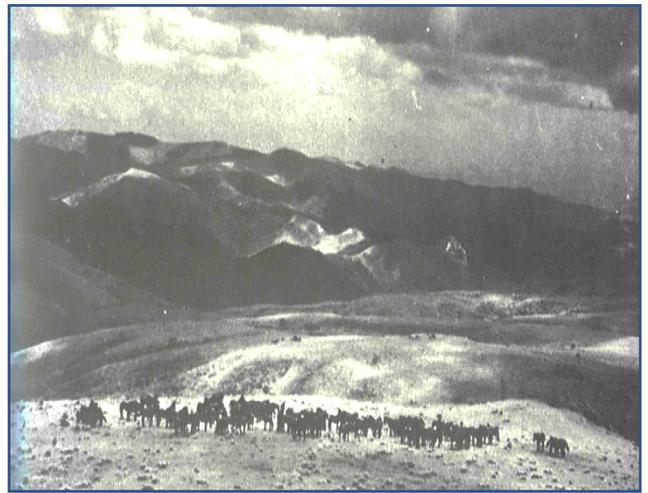
種山ヶ原は江戸時代から伊達藩直営の馬の放牧地でした。明治以降は、近在農民の採草・放牧地として解放されましたが、軍馬育成のために明治34年から金ヶ崎にある陸軍省軍馬補充部の出張所を開設しました。

岩手県は昭和24年に県営種山牧野を開設し、畜産振興を進めている矢先、翌年昭和25年に新牧野法が制定され、北海道と種山ヶ原2か所が大型放牧地に選定され、農林省の国営牧野になり更に規模が広がっていきました。しかし、戦後軍馬の需要も減り、昭和30年以降農耕も機械化が進み、馬耕も減り、やがて育牛に代わり、牧場もすっかり様変わりしていきました。

種山ヶ原が採草地として開放されてからは、部落ごとに割り振り、約束事の

もとに部落ごとに草刈りに行き、楽しい交流の場ともなったようです。そこに色々な風物詩が生まれていったようです。宮沢賢治の童話「種山ヶ原の夜」の中にもその様子が描かれています。

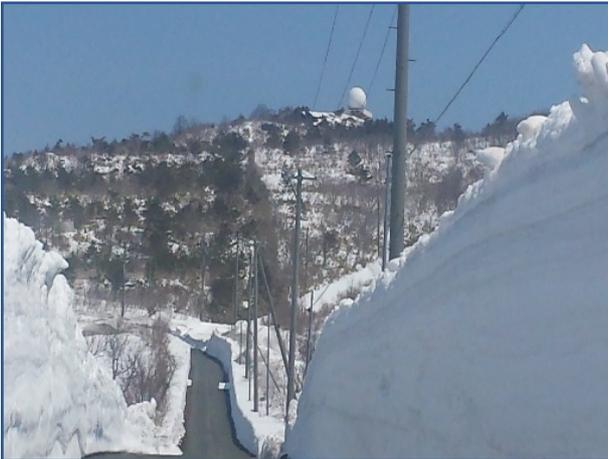
(写真は昭和 30 年頃のもののようにです。)



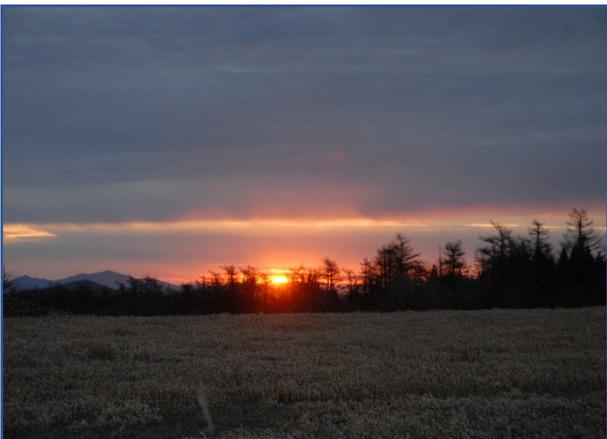
今、種山ヶ原を駆けているのは鹿

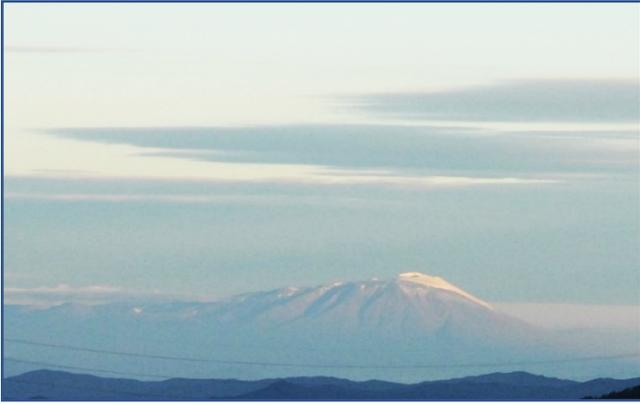
馬から牛へ





朝焼け・アメダスが朝日をあびて

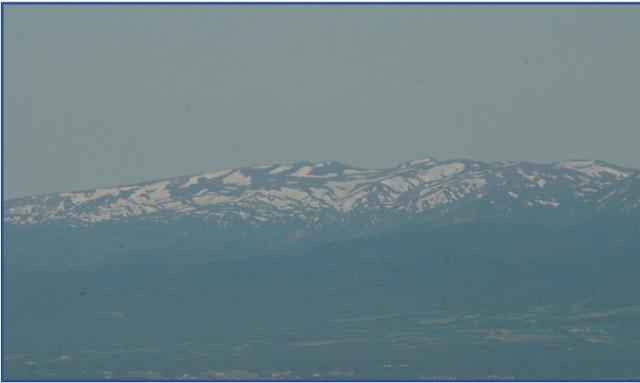




岩手山



早池峰山



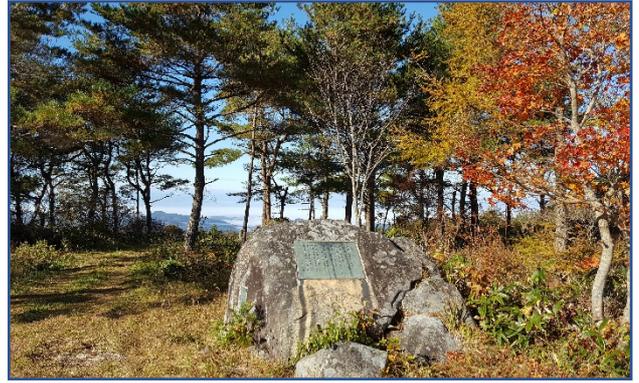
奥羽山脈・焼石連峰



雲海



誰がケルンを始めたのかな？



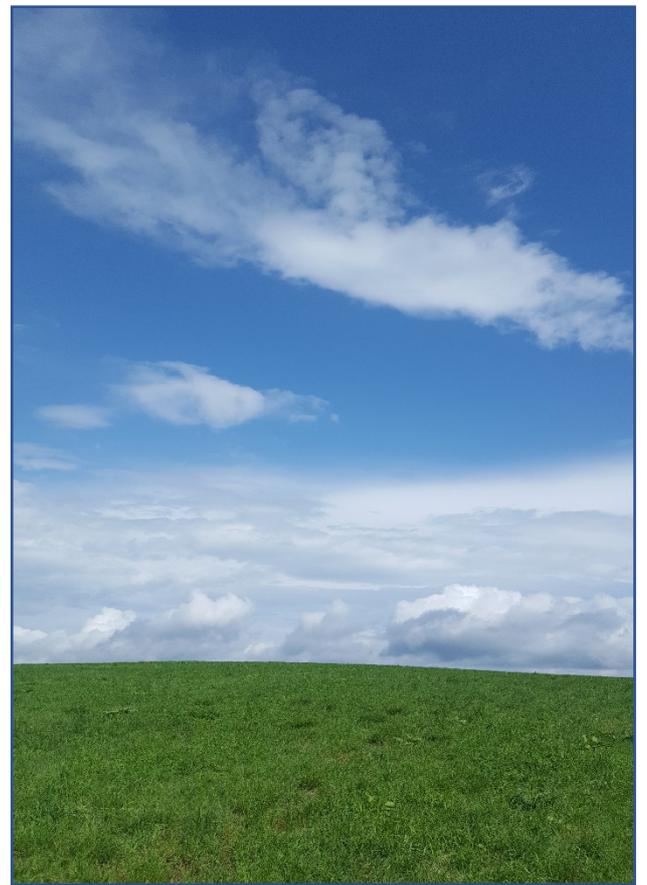
詩碑「牧歌」



「星めぐりの旅」に参加した子ども達。大岩に



野坂トリオの賢治の歌コンサート



次は種山ヶ原の草花を